

新刊

児童書

つかまたた (3~5歳向け)
田島 征三 作 (偕成社)

夏のある日、川の浅瀬に大きな魚がいるのを見つけたぼくは、足をすべらせて川に落ちてしまう。水の中で懸命にのばした指が魚にふれると、ぼくは無我夢中でそれをつかまえて…。少年の日の原体験をテーマにした絵本。



一般書

野菜の栄養素まるごと便利帳

吉田 企世子 監修 (エクスナレッジ)

野菜との上手なつき合い方を知ろう! 野菜を50音順に掲載し、選び方から保存の仕方、洗ひ方、切り方、相性のいい組み合わせまでを写真とともに紹介。からだにいい栄養素を逃さない、野菜のいちばんいいとり方がわかる。

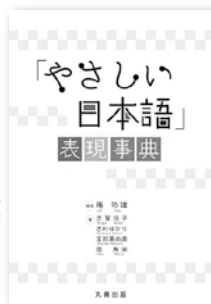


一般書

「やさしい日本語」表現事典

庵 功雄 編著 志賀 玲子 著 (丸善出版)

災害時の情報発信を目的に生まれ、日本で暮らす外国人など様々な立場の人と日本社会とのパイパスとしての役割を担う「やさしい日本語」。その基礎を解説し、学校・行政・くらしなどの場面を想定した会話例と文章例を紹介する。



一般書

百年と一日

柴崎 友香 著 (筑摩書房)

地下街にはたいてい噴水が数多くあり、その地下の噴水広場は待ち合わせ場所。何十年前も、数年後も、誰かが誰かを待っていた。人生と時間を描く新感覚物語集。



特集

町政あんない

キラリ健康ナビ

子育てひろば

情報コーナー

まなびすと

わすれずプリント

豊山俳句クラブ

青山克己 選

扇風機時々動く猫の耳

東海林宗義

むらさきの袂紗捌きや夏点前

杉浦みどり

人とゐる言葉続かぬ暑さかな

水野眞弓

カラフルな嘘もまじりししゃばん玉

青山とも子

物干しにキチキチバツタの雄姿かな

谷崎 琴

煙なき窯の煙突蒿若葉

岡島 齋

水無月の雨のつり橋迂回せり

高木須磨子

新聞受けゆっくり動く蝸牛

山下敬太

枇杷食らひ種二三つ庭に吐き

黒澤裕子

青葉風奥に暖簾の揺れてゐる

田村多喜子

余生とは決めて決まらぬ茄子の花

坪井昭子

入り組みし漁村の路地や軒すたれ

坪井径子

門口に犬の寝そべる夏至の家

青山克己

豊山歌壇

水野笑子 選

ウイルスに自粛生活続きあてテレビの洋画に救はれてをり

荒川昌枝

老いしとて短歌に励まされコロナ忘れ詠めば幸せ自粛の時も

柴田満枝

畑仕事を息子にゆづり安堵する馬鈴薯キヤベツも元気に育つ

小出寿枝

鴨の群れ去りて湖面の静もるに岸部に波立つ小魚の群れ

中澤芳子

六月一日父逝きし日を忘るなし馬犬・小川・幼な日の友

一柳千鶴子

三人に会へば三密忘れかけ話に夢中をはつと気づきぬ

月隠れ仰ぎし空に星見えすコロナの影響不気味な静寂

渡辺トヨ子

早乙女の姿は見えぬも四方の田はコロナに負けず緑逞し

三ヶ月休み続きし講座ゆる互ひの無事を喜び合ひぬ

季節ごとにテーブルの上替りあてその家の様子ほほえましかり

父居ねばあつと言う間の乱雑さ広接のテーブル常に見守る

水野笑子

編集後記

特集でもお伝えしたとおり、今年には5年に1回の国勢調査の年である。大正9年の第1回国勢調査から今年でちょうど100年目の調査となる。この100年のうちで調査が中止されたのは昭和20年の第6回国勢調査だけとなっている。他の調査は台風や地震などによって遅れることはあっても5年ごとに確実に実施されてきた▼なぜ国勢調査をしなければならぬのだろうか?人口を調べるなら住民票や戸籍があるし、それを流用すればいいのではないかと思ってしまう。しかし、住民票は異動しないまま引越してしまえば機能しなくなり、現実の住所を正しく反映しなくなってしまった。国勢調査を31年間行っていないかったミャンマーでは、2014年に国勢調査を行ったところ、人口が約5100万人であることが判明した。ミャンマー政府の推計では人口は6000万人のはずなので900万人も多く計算していたことになる。実は国民の6人に1人は存在していないかったのだ▼そんなバカなと思いたくなるけれど31年も国勢調査を実施しなければこういふことになる。もちろん、ミャンマーにも国民登録制度といったものはある。しかし、現実を正しく反映していなかったため、高度に分業と産業の集積が進んだ社会はもとに機能しなくなってしまうだろう。市民の皆様には国勢調査の意義をご理解いただき、調査にご協力いただきますようお願いしたい。